



学校だより

12月号②

自ら学び考えることができる生徒

感性豊かで思いやりのある生徒

心身ともに健康な生徒

大田区人権教育研究協力校

「みんながいる わたしがいる
さしのべる 生きている」

令和3年12月24日

大田区立糀谷中学校

校長 小島 宏一郎

2学期を振り返って

おはようございます。80日間の長い2学期も本日で終わり、終業式を迎えることができました。

学校が始まることによる感染拡大が心配される中でスタートした2学期でしたが、9月から10月の初めにかけて感染者数が大きく減り、振り返ると、たくさんの行事を行うことができました。

9月の生徒会役員選挙に始まり、10月には、3年生の修学旅行、1年生の移動教室、学校全体で取り組む大きな行事である生徒発表会、11月には2年生の職場体験、そして、連合学芸会（英語の部・音楽の部）や区立中学校美術展などの大田区全体の行事もいくつか実施されました。

それぞれの行事や活動に目標をもって取り組み、成果をあげ、また、たくさんの思い出も残したことと思います。特に、生徒発表会では3年生が良い見本を示し、学校全体が一体となって発表に取り組む、感動を共有することができました。

新型コロナウイルスが完全に収まっていない中で、多くのことに取り組めたのは、皆さん一人一人が感染予防に引き続き取り組んできたことはもちろんですが、行事や取組に関わるたくさんの方々の支援と協力、皆さんのお父さんお母さん始めご家族のご理解があったことを忘れないでください。昨年度できなかった修学旅行や移動教室では、宿泊施設や交通機関、旅行業者の方々が徹底した感染防止対策をしてくださいました。職場体験では区内の49事業所が受け入れてくださり2年生全員が3日間の体験をすることができました。3年生の修学旅行のスローガンには、感謝の気持ちを込める意味で「恩返し」の「恩」の字が入っていました。感謝の気持ちを忘れずに、2学期の行事や取組で学んだこと、身につけたこと、考えたことをこれからの生活に生かしてください。

さて、9月の始業式では副校長先生に2つのことを話してもらいました。「目標をもって主体的に学ぶこと」「関わりを大切にすること」の2つですが、いかがでしたか。授業のねらいを理解し深く考えたり、自分から学習する習慣を身に付けたりし、主体的に学習に取組むことはできたでしょうか。学級・学年の仲間との関わりを大切に、良い集団を築くことはできたでしょうか。

学校は勉強する場所です。そして、先生や友達と関わりながら多くのことを学ぶ場です。「目標

2学期終業式校長講話より

校長 小島宏一郎

をもって主体的に学ぶこと」「関わりを大切にすること」これからもこの二つのことを意識して学校生活を送ってください。

この後の学活では担任の先生から、通知表が手渡されます。皆さんは、教科の評価・評定が一番気になるでしょうが、通知表には、担任の先生が皆さん一人一人の2学期の生活の様子を思い浮かべながら、時間をかけて書いた所見も記載されています。しっかり読んでこれからの生活に生かしてください。印象に残った所見を紹介します。

「『誰かのために、自分ができることを頑張ろう。』そんな姿勢を多く見ることができた学期になりました。」「委員会決めでは、やる委員会が決まっていたにもかかわらず、立候補者のいない委員会に移ってくれました。そして、引き受けたからには一生懸命に取り組む姿勢も素晴らしいです。」「常に周りの友達のことを考えながら思いやりをもって行動してくれました。あなたのさりげない優しさで救われた人は少なくないと思います。」「練習の準備や片付けの際には、いつも気を利かせて実行委員の手伝いをしてくれました。」「係の仕事やそうじ、給食当番など自分の仕事に責任を持って取り組む姿勢が継続されています。」「

誰かのために、クラスのためにという気持ちで進んで働いてくれた生徒、日頃から周囲の友だちに温かく接する生徒、地道に係や当番に取り組む生徒、そんな生徒が糀谷中にはたくさんいることがわかり、とても誇らしく思います。

ほかにも所見には、2学期の良かった点や課題が書かれています。しっかり振り返り、3学期の目標を具体的に立ててください。

最後に、冬休みは学期の切り替わりであると同時に、新たな年を迎える時機でもあります。「1年の計は元旦にあり」ということわざがありますが、残りの1週間で今年1年を振り返り、2022年の夢や抱負をしっかりとって元日の朝を迎えてください。

新型コロナウイルスの新たな変異株が、少しずつ広がりを見せています。規則正しい生活と健康管理、感染予防対策を徹底し、3学期の始業式には皆さん全員元気に登校してください。

特に、3年生は進路決定の大切な冬休みです。強い意志をもって、目標に向かって、粘り強く諦めず、突き進んでください。応援しています。

命の大切さを改めて考える

電車内で刃物による死傷事件が続いた後、11月末には愛知県の中学校で中学3年の生徒が同級生に刺殺されるという事件が起きました。犯行の動機についてそれぞれの加害者は、「幸せそうな人を見ると殺したくなった」(小田急線の事件)、「仕事や友人関係がうまくいかず死にたかった」(京王線の事件)、そして愛知の事件では「いやなことが続き、どうしてもよくなったと感じるようになった」などの供述があったと報道されています。特に愛知の事件は、同世代の中学生が起こした事件であり、本校の生徒にとっても大変衝撃的な出来事であると思われます。

そこで、12月6日の生徒会朝礼では、どんな理由があろうと命は大切にしなければならぬ、自分の命も他人の命も奪ってはならないということを生徒に話しました。そして、悩みや困ったことがある人は、近くの信頼できる大人に相談するように伝えました。学校では、担任でも部活の顧問でも養護の先生でもスクールカウンセラーでも、校長室に相談に来て構わないと話してあります。生徒の生命や安全を守るため全力を尽くします。

また、保護者の方から刃物の持込みなどを心配する声もありました。学校の決まりでは「学校の学習、部活動に必要な物以外は、学校に持ってこない」となっており、生徒にはカッターやはさみなど刃物類、マッチやライターなど火器類は持ってこないように指導しています。実験や作業で使用する場合は教科で用意した物を使用させることになっています。

ご家庭でも、何か気になることがございましたら、いつでも学校にご相談ください。(校長 小島宏一郎)



生徒の活躍の記録から

【社会を明るくする運動意見発表会】

(11月27日(土) 羽田特別出張所)

意見発表会 感謝状 3 C [redacted]
題名「平和な世界を実現する」

※作文は11月に配布した「大田区保護司会
第四分区ひろば」に掲載されています。

【中学生の「税についての作文」】

都税事務所長賞 3 C [redacted]
題名「グローバル企業とこれからの税金」

※下に作文を掲載しますのでご覧ください。

【大田区小中学校人権啓発作品展】

ポスターの部

- 3 A [redacted] 「本当の自分」
3 B [redacted] 「笑顔の世界」

標語の部

- 2 B [redacted] 「先入観 無くせばあなたの 世界広がる」
2 D [redacted] 「気づいてる？ 君は誰かの宝物」

習字の部

- 1 B [redacted] 「感謝」
1 C [redacted] 「尊尚親愛」



【バレーボール部】

第48回区民スポーツ大会(秋季)
中学生の部6人制バレーボール 優勝



グローバル企業とこれからの税金

三年

私は最近ニュースで話題になっていた法人税の国際的な課税ルールの制定について気になり、この機会に詳しく調べてみることにしました。

ニュースによると、OECD(経済協力開発機構)などで作るグループのうち一三〇の国や地域は、各国が企業誘致などを目的に繰り広げてきた引き下げ競争に歯止めをかけるため、最低税率を一五%以上とし、二〇二三年の実施を目指すことで、大卒で合意したそうです。

この合意の背景には、GAFと呼ばれる巨大IT企業や国境を越えて事業を行うグローバル企業があることがわかりました。これらの会社が、タックスヘイブンといって法人税率の低い国や地域に籍を置いて払う税金を少なくしていました。これにより、既存のルールでは適正に課税ができなくなっていました。そして、企業の誘致などを狙う国が、競うように法人税率の引き下げをしていくことが問題になっていました。私は最初、なぜ最低税率の引き上げが必要なのか、よくわかりませんでした。ですが、背景を知って課税ルールが変わろうとしていることに對してとても素晴らしいことだと感じました。タックスヘイブンは、会社の税負担を減らすにはいい案だとは思いましたが、本来支払われるはずの税金が入ってこないとはとても困ってしまいます。

OECDの推計によると、法人税の最低税率を一五%とした場合、毎年およそ日本円で一六兆円を超える税金を新たに得ることができるようになるそうです。一六兆円あったら様々な問題に取り組んだり、国をより良いものにできるのではないかと思いました。

また、音楽やネット配信など国境を越えて事業を展開するグローバル企業に対する、新たな課税のルールを導入することも合意しました。

現在のルールでは、そういったコンテンツを提供しているグローバル企業に対し、本社や現地法人といった拠点がある場合は課税できますが、拠点が無い国では、消費者がその企業のサービスを使用し料金を支払っていても、原則課税ができません。ですが今回の議論で、拠点がなくても売り上げと利益率が基準を超える企業には課税できるようにすることで合意しました。これにより日本にも税金が入り、私たちの支払ったお金が還元されたら嬉しいですね。

この作文を書く過程で税金を身近に感じ、視野が広がったと思います。これからは、私たちの生活を支える税金について、より考えを深めていきたいと思っています。

